

主催：福島県

事業受託者：認定特定非営利活動法人 ドリームサポート福島

アートで広げる
みんなの元気プロジェクト

2021

記録集

アートによる新生ふくしま交流事業

地域の活性化や子どもたちの心豊かな成長を図るため、地域住民や子どもたちが交流しながらアート事業を実施し、元気な福島の姿を発信する取り組みです。

創作活動を通して地域の魅力を再発見するとともに、人々の交流や生き甲斐の創出を目指す「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び、学校では体験できない創作活動を通して福島の未来を担う子どもたちの心豊かな成長を支援する「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」により構成されています。

アートで広げる みんなの元気プロジェクト 2021

市町村やNPO等と連携し、地域資源を活用したアート（作品づくり）を展開することで、地域の魅力を再認識するとともに、創作活動を通じての自己表現や楽しさを体験しながら人々の交流を図ること、そして福島県の「元気な姿」を県内外に発信することを目的としたプロジェクトです。今年度は、いわき市を拠点に被災者支援活動を続けるNPO法人みんなぐく、富岡町観光協会のご協力のもと、浜通りの市町村から避難し、県内の復興公営住宅等で生活する皆さんとともに、3つのプログラムを実施しました。

CONTENTS

P2

Program 1

想いを形にしてみませんか 講師 和合 亮一

P6

Program 2

まちと私の小さな写真旅 講師 山崎エリナ

P10

Program 3

思い出の形を鑄造しよう 講師 黒沼 令

P14

みんなのアート作品展
(アートで広げる子どもの未来プロジェクト共同開催)

P16

新生ふくしま アート・フォーラム
(アートで広げる子どもの未来プロジェクト共同開催)

想いを形にしてみませんか

思い浮かぶ言葉を集めて、選んだり繋いだりしながら詩に仕上げ、それぞれの作品を朗読して声で想いを表現してみます。故郷への想いをみんなで分かち合うワークショップです。

2022.1.8 sat 本宮市 下田第二市営住宅集会所

2022.1.8 sat 大玉村 大玉村横堀平地集会所



朗読する時に感極まる方も、和合さんに思いのたけを話す方、

ふるさとを離れ、本宮市と安達郡大玉村の復興公営住宅で暮らす皆さんと詩人・和合亮一さんのワークショップは、好きな言葉を 30 個書くことから始まりました。書き終えたシートを見せていただくと、「新潟」「上越市」と書かれた方がおられました。理由を尋ねると「避難したまちです」と教えてくださいました。「風呂」は、「湯船に身を沈めた時のホッと瞬間が好きだから」と。「ネイル」と書かれた方は、「心がもやもやしてくるとネイルをするの。でも、そういう時ってなかなかうまく塗れないのよ。除光液の減りが早くて、お店の人に『もうなくなったの?』と聞かれることもあるの」と教えてくださいました。

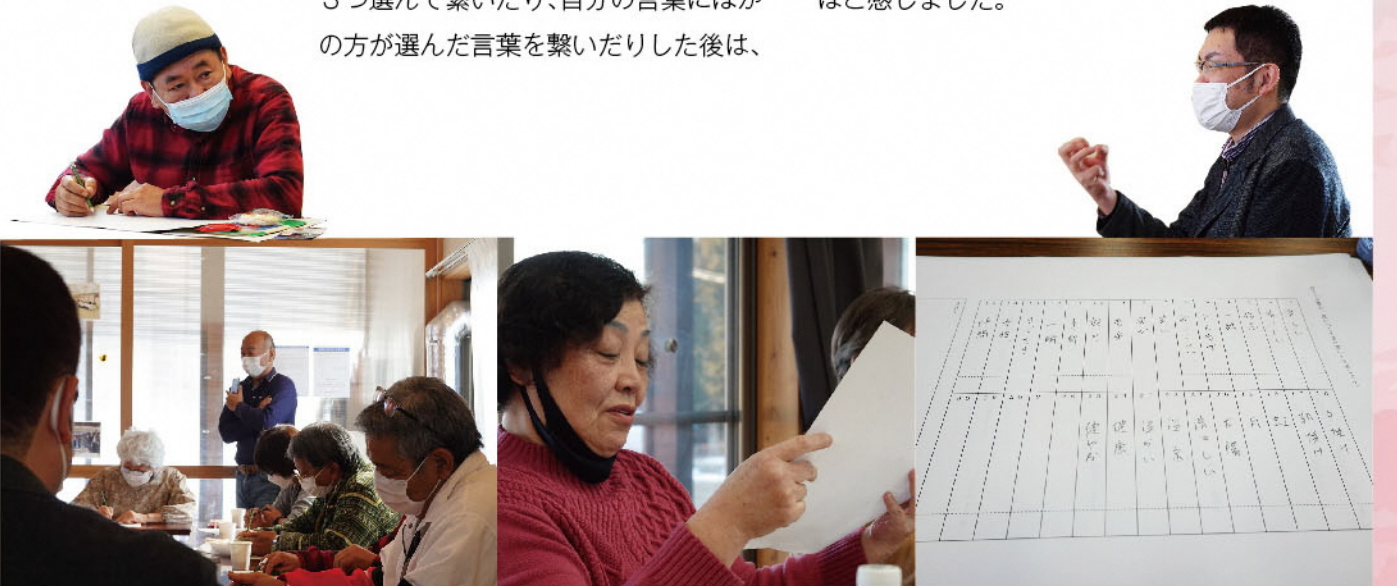
30 個の言葉の中から好きな言葉を 3つ選んで繋いだり、自分の言葉にほかの方が選んだ言葉を繋いだりした後は、

「ふるさと」を違う言葉に置き換えるワークです。

なかなか書き進められずにいた方は、得意な料理を皮切りに、旦那様の船の名前、釣れた魚の名前を、いくつもいくつも紙いっぱいを書きました。

ワークショップ後半は、集めた言葉を塊にして詩に仕上げ、最後にそれぞれの作品を朗読しました。和合さんに思いのたけを話す方、朗読する時に感極まる方もおられ、言葉がその人の想いや記憶を呼び起こす力があることに改めて気づかされました。

コロナ禍もあり、自由に語り合う機会が減り、蓋をし続けていた故郷への想いを、文字と声で表現し、みんなで分かち合い、あたため合えた時間になったのではと感じました。

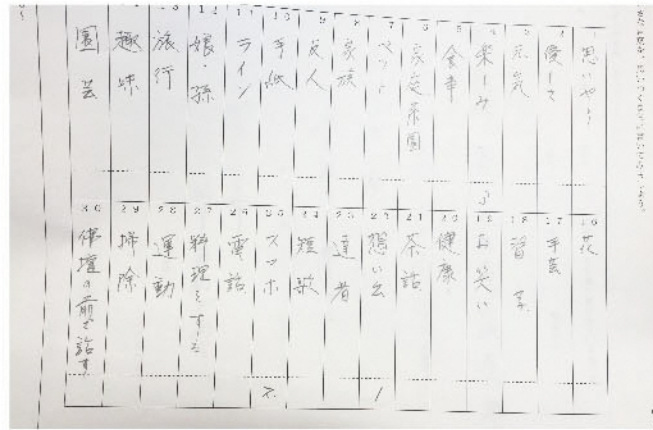


講師 和合亮一

福島市出身。福島大学卒業。詩人。国語教師。第一詩集『After』で第4回中原中也賞受賞、第四詩集『地球頭脳誌篇』で第47回晩翠賞受賞。第30回NHK東北放送文化賞受賞。東日本大震災では自らも被災し、Twitterで『詩の礫』を発表した。2017年、『詩の礫』のフランス語版が第一回ニュク・レビュー・ポエトリー賞を受賞し、日本文壇史上初となり話題を集めた。2019年、『QQQ』で第27回萩原朔太郎賞受賞。合唱曲や校歌の作詞多数。福島県教育復興大使。福島大学応援大使。ふたばの教育復興応援団。朗読パフォーマンスは国内のみならず、海外のイベントでも高い評価を受けており「サムライリーディング」の異名を持つ。来春にアメリカにて英訳詩集が出版予定。これまで詩のワークショップを全国各地で行ってきた。

RYOICHI WAGO





言葉は未来も見せてくれる 思い悩んだりした時に、 何か書いてみると生き方が変わってくる



2回のワークショップで和合さんは、「言葉は未来も見せてくれる」と話されていました。「書いたものは鏡。思ったことをメモにするだけで違います。書く時間は、日常会話で過ぎていく時間とは異なる時間が流れます。好きな言葉を考えていると何か浮かんで来て、書いてみようかなと思う。何か下から浮かんで来るような、そういうものがひらめいたときに言葉を書いてみる。好きな言葉を書くだけで自分の気持ちというか、心というか、なんとなく分かってきます」。

また、思ったり、ひらめいたりしている時間はまだ半分で、それらを紙に書くことで次の半分がやってくるとも。

ほかにも「3つのことばを繋ぐと何か生まれます。いまの自分の気持ちを表してくれます」「思い悩んだりした時に、何か書いてみると生き方が変わってきます。一日の中で少しでも紙に向かって書き続けることで、誰でも詩人になれます」など、限られた時間の中で示唆に満ちた言葉をたくさん届けてくださいました。



参加者の感想

- ・大変楽しい時間で脳が若返った感じです。
- ・難しいと思っていたけど、楽しかったです。

- ・とても良かったです。泣かされました。
- ・ワクワクしました。楽しかったです。
- ・最初は難しいかと思っていたが、思ったより出来た。

- ・わかりやすく、楽しかった。
- ・少し頭が良くなったと思います。
- ・またこのような時間が持たてられたいです。

- ・ことばに表す、書くが響きました。
- ・書くことは良いことです。
- ・また参加したいです。
- ・言葉の勉強になりました。有難うございました。

- ・思いを言葉にすること、表現することは難しいことだと思いました。また参加してみたいです。
- ・何十年ぶりに詩を書きました。自分でもビックリでした。でも楽しかったです。

- ・難しいと思っていたが先生の教え方がうまく、やっていて楽しかった。
- ・また次回があれば色々なことをしてみたいです。



まちと私の小さな写真旅

まちを散歩して思わぬ発見やお気に入りのモノや場所を写真に撮り、自分の思い出と重ね合わせながら、思いを語りました。

- 2021.11.5 fri 富岡町
富岡町文化交流センター「学びの森」
- 2021.12.11 sat 本宮市
下田第二市営住宅集会所



講師 山崎 エリナ

兵庫県出身。阪神淡路大震災後に渡仏。パリを拠点に世界 40 カ国以上を旅して撮影。帰国後、国内外で写真展を多数開催し、写真集や雑誌等で活躍中。みずから音楽 PV 作成も行う。近年はトンネルや工事現場などのインフラメンテナンスをテーマに撮影に取り組み、暮らしや国土を支える土木関連の取り組みを撮影した写真集で注目を集める。これらの一連の活動に対しインフラメンテナンス 大賞優秀賞（国土交通省）。2020 年 7 月 2 日の福島民報でも、写真集に収められた川俣のトンネル工事の写真の記事が紹介されるなど、本県ともつながりが深い。福島県が舞台となった写真集「インフラメンテナンス」「トンネル誕生」(グッドブックス)

ELINA YAMASAKI



避難する前の思い出と重ね合わせながら
気になった場所、お気に入りの撮影

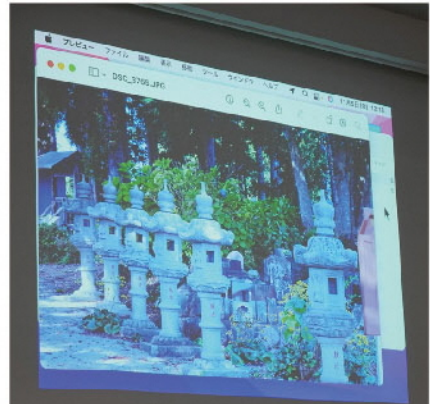
山崎エリナさんのワークショップでは、ふるさとの思い出と重ね合わせながらまちを巡り、気になった場所やお気に入りのモノ、風景を写真に収めました。その後、選んだ2枚の写真を皆さんの前でお披露目するという流れです。

11月のワークショップは、富岡町観光協会主催「富岡町魅力再発見フォトコンテスト」とのコラボ企画でした。ふるさとである富岡町に駆けつけてくださった皆さんとともに、町内をバスで巡りながら懐かしい風景をカメラに収めました。宝泉寺、夜ノ森駅、とみおかワインドメニューと巡り、富岡町文化交流センター「学びの森」へ。参加された皆さんが「震災前は…」と思い出を振り返りなが

らまちを歩き、昔話に花を咲かせました。

12月のワークショップは、下田第二市営住宅集会所(本宮市)が会場でした。本宮市内には、浪江町から避難している皆さんが暮らす復興住宅が3カ所あります。今回は、下田第二市営住宅と楸形第二市営住宅(仁井田地区)の合同開催となりました。「どんな写真を撮りたいですか?」という山崎さんの問いかけに、「連写で新幹線を撮りたい」「小学校まで行ってみたい」などの声上がり、早速集会所を出発。近所の小学校、新幹線が見えるスポットなどを巡りました。





どんな思いで撮ったのか
発表者の言葉が写真を深める

「どんな思いで撮ったのか。発表する方の言葉が写真を深めるので、写真を見る方も心を重ねてくださると思います」と山崎さん。ワークショップ後半、ホワイトボードの前に立ち作品の発表が始まると、みなさん温かいまなざしで撮られた方の話に耳を傾けていました。

小学校時代の自身の思い出を校庭のジャングルジムに重ねて「昔の思い出」とした方。自宅近くでたくさん見かけるというカナヘビに「友達」と題をつけられた方。濃い青空を背景に咲く一輪の山茶花に、自分自身を重ねて「一人ぼっちの山茶花」とタイトルをつけた方もおられました。隣で聞いていた山崎さんは、「山茶花が『私を見て』と言っているみた

いですね。よく見るとまわりにつぼみがたくさんありますね」と皆さんひとりひとりにコメントされていました。

写真を説明するために紡ぎ出される言葉は、耳を澄ますほどその方の内面を語る物語となりました。言葉は、背後の記憶を色濃く立ち上がらせるだけでなく、もしかしたらこれまで語ることがなかったかもしれない物語までも紡ぎ出しました。安心して語り、聞くことで、参加者それぞれの物語も更新され、新しい物語が始まるきっかけになったり、異なる記憶であっても写真という共通のワークを介することで、一つの大きな物語となって心を満たしていくような意味と力を持つ時間になったように感じます。



参加者の感想

- ・楽しく撮れました。もっと多くの人が参加すればいいのにね！
- ・初心者でもカメラを持って撮影できたのは良かった。
- ・原子力災害の為、撮りたいところが撮れませんでした。

- ・時間が短すぎた。
- ・有意義でした。
- ・改めて町内をじっくり散歩する良い機会になりました。カメラ(写真)×まち巡り=今まで知らなかった楽しみの気付きがありました。

- ・皆さんが「震災前は...」と思い出を振り返りながらまちを歩いていて感慨深かった。
- ・楽しく参加させていただきました。
- ・もっと長い(1日ばかり)のワークショップでもいいと思えるくらい、楽しいイベントでした。

- ・78歳にもなり皆さんと歩く事がとても嬉しい。
- ・先生たちと楽しく取り組むことができとても良かったです。
- ・楽しかったです。
- ・カメラの楽しさを、再確認。

- ・今回初めて、カメラで風景を撮る体験をしましたが、いろいろ撮り方を教えて頂いてカメラの楽しさを知り、また撮りたくなりました。
- ・カメラでアートが写せたかな！！
- ・他の人の目線、見え方を知る事が出来た。

- ・初めてにしては楽しい時間でした。
- ・何気ない一枚の写真でも写す人によってだいぶ違うと思った。
- ・新しい視点で町を見る事が出来た。



思い出の形を鑄造しよう

～金属とふくしまの木のコラボレーション～

思い出の形ってどんな形だろう？ 形のない思い出を粘土で立体にして、低い温度で溶ける金属を流し込んで鑄造し、ふくしまの木の台座と組み合わせて小さな彫刻をつくりました。

| | | |
|------------------------------|-------------------|----------------------|
| 2021.11.26 12.3 | fri fri | 会津若松市 県営年貢町団地 1号棟 |
| 2021.11.27 12.4 12.18 | sat sat sat | いわき市 家ノ前団地 |
| 2021.12.10 12.17 12.24 | fri fri fri | 本宮市 下田第二市営住宅集会所 |



まずは型づくり。次の段階で鑄込み。磨き続け台座をつけるという3段階で完成です

思い出の形ってどんな形だろう？なかなか経験できない「鑄造」という手法で思い出の形を創作するワークショップは、複数日にわたる講座でした。

第1段階は、型づくり。思い出を粘土で立体にして、紙コップに入れ石膏を流し込むところまで。第2段階は、型から粘土を取り出し、低い温度で溶ける金属

を流し込む今回のワークショップのハイライト「鑄込み」。金属を流し込んだらすぐさま冷やし、固まった金属を型から取り出します。第3段階は仕上げ。金属を磨き上げ、ふくしまの木の台座と組み合わせて小さな彫刻を完成させます。いわき会場では東日本国際大学の学生が、本宮会場では郡山女子大学短期大学部の学生がお手伝いしてくださいました。



講師 黒沼 令

岩手県出身。福島大学大学院修了。郡山女子大学短期大学部講師。彫刻家。木彫制作に取り組む。2001年より国展に出展し、国展準会員優作賞など受賞多数。リアス・アーク美術館にて2018年に個展を開催。人間とは何か、現代における人間を具象表現を通して探求している。大学では地域創成学科でアートの実技制作のほか、アートによる地域づくりに学生と取り組んでいる。2018年には福島県立美術館の創作プログラム講師を担当(2018年11月13日)。全国区で活躍する注目の彫刻家であり、県内在住芸術家の若きトップランナーである。

REI KURONUMA





キノコ、団子、浪江に戻る鮭、海を泳ぐカレイなど形になった思い出

初日、黒沼先生がハートやバナナ、動物の頭蓋骨など、完成サンプルを机に広げた時のことです。「あっ、船！」と、声を発した方がおられました。太平洋に面した浜通りがふるさとの皆さんだからこそそのまなざしだと感じました。手のひらで粘土を転がして形を作るワークは、皆さん楽しそう。まるで子どもの頃に戻ったようにみんなでコロコロ。「下絵を考えてきてもそこは粘土。なかなか思い通りにはいきません。粘土の力も借りながら形が立ち上がって来る面白さを感じてほしい」と黒沼さん。隣の人、お向かいの人、あれやこれや話をしながらコロコロ。どんな形が生まれたのか見せていただく…キノコ、団子、亀、花、優勝カップ、だるま、浪江に戻る鮭、海を泳ぐカレイなどなど、皆さんの日常やふるさとにつながる思い出がちゃんと形になっていました。

第2段階に入る頃には、不安や緊張がほどけ、いずれの会場も和やかな雰囲気。参加者同士、会話も弾んでいました。メインは何といても「^い鑄込み」。卓上コンロで溶かした^{すず}錫の合金を石膏型に流し込みます。その際、石膏の乾燥が不完全だとブクブク金属が溢れ出てしまいます。そこで流し入れは、黒沼さんが行ったようにみんなでコロコロ。「下絵を考えてきてもそこは粘土。なかなか思い通りにはいきません。粘土の力も借りながら形が立ち上がって来る面白さを感じてほしい」と黒沼さん。隣の人、お向かいの人、あれやこれや話をしながらコロコロ。どんな形が生まれたのか見せていただく…キノコ、団子、亀、花、優勝カップ、だるま、浪江に戻る鮭、海を泳ぐカレイなどなど、皆さんの日常やふるさとにつながる思い出がちゃんと形になっていました。



参加者の感想

- ・初めて行きました。先生、スタッフの指導が良く、分かりやすく良かったです。
- ・初めての体験で楽しく作業できました。
- ・とても良かったです。
- ・楽しい時間を過ごす事が出来ました。

- ・面白い作業でした。
- ・みんなでやれば楽しいです(へたでも)
- ・最初はどのような事かと思いましたが、皆さんのご協力で何とか形にすることができました。ありがとうございました。

- ・今まで経験したことがなかったので、貴重な体験をしました。記念に残る作品が出来て良かったです。
- ・とても良かったと思います。
- ・つくる事は、面白いです。
- ・みんなで楽しくやれたので良かったです。またやりたいです。

- ・初めての体験が出来てとても楽しかった。参加している方が話が出来て良い機会になった。
- ・とても楽しく、完成した時に達成感を感じることができた。
- ・なかなか楽しい時間を過ごせました。

- ・意外と大変でした。
- ・物を作る事の楽しさを久しぶりに味わえた。参加してとても有意義な時間を過ごせた。
- ・思った通りの形が出来上がった時と、磨いて綺麗になった時に感動しました。

- ・3回にわたって自分の作品を作るワークショップだったので、とても楽しかった。
- ・楽しかったです。
- ・それなりの物が出来て楽しいです。次は高度なものを作りたいです。

「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」
「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」

みんなのアート 作品展

県内外で活躍する6名の講師とともに創り上げた
参加者の作品を展示しました。

2022年 2月1日(火)～2月6日(日) 会場：郡山女子大学建学記念講堂展示ロビー(郡山市)

2022年 2月19日(土)～2月21日(月) 会場：パセナカ・ミッセ 地域交流スペース(福島市)



会場のアンケートから

作品の出来栄が良かった。
郡山市 60代

おもしろ写真が、アイデアと
子どもの元気が詰まっています。
面白かったです。
いわき市 30代

前回よりもワークショップの
種類が増え、それぞれの
作品により作者の個性や
感性が強く感じられ、
楽しく見ることができた。
福島市 50代

参加者の皆さんの楽しさが
伝わってきました。
自分も参加してみたく
なりました。
郡山市

3.11の出来事が、
記憶にない世代に、アートによる
メッセージや福島愛を
残すことの大切さを感じます。
福島市 40代

子どもたちの自由な創造力が
素晴らしいと思いました。
二本松市 40代

素直に個性が表されている
と思った。
郡山市 60代

特に子どもたちの
福島についての想いを
作品から感じることができた。
福島市 50代

写真が良かったです。
福島市 60代

若い人はすごいな
自分があるし。
福島市 60代

それぞれ形になって、
良かったです。
喜多方市

それぞれの福島への思いが、
いろいろな表現方法を通して
伝わってきました。
とても良かったです。
福島市 10代



震災から11年。本年度、福島県が実施した「アートによる新生ふくしま交流事業」の取り組み「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」と「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」を振り返りました。
当日は、携わっていただいた講師の方々にご参加いただき、芸術活動を通じた心の復興や生き甲斐の形成、そして、福島の未来を担う子どもたちの心豊かな成長を、どのように支援してゆくのかを考えました。

新生ふくしま アート・フォーラム

Zoomによる
オンライン開催

プロジェクトの振り返りと気づき

2022 3.27 sun 13:00-15:00

作品を作るプロセスこそアート
詩人・和合亮一さんのワークショップは、最後の朗読タイムで感極まる方がおられ、どの回も心に染みる時間になりました。今日は、宿題を持ってフォーラムに臨みました。実はある時、和合さんが「アートと癒しは違う」という話をされまして。以来、私なりに問い続けてきたのですが、今回フォーラムにご参加くださった皆さまのお話の中に、作品を作るプロセスこそアートだという解を見つけられました。それは、アートで何かを作るのではなく途中の過程を共有し合うこと、理解し合うこと。さらにはばからず言えば、アートを手段に表出してくる物語を受け止め、抱えて生きるご本人の背中を押すというか、肯定するというか。そうした気づきを、次のステップにできたらと思います。 <事務局 菅野真談>

若い世代が関わると取り組みの意味が大きくなっていくのでは
「思い出の形を鑄造しよう」は、彫刻の制作工程の特徴として自然素材に触れながら夢中になる時間を大切にしたいと考えて計画しました。皆さんが手を動かし、対話しながら故郷の思い出などを共有する場に、自分も居られたことが印象深く残っています。今回のように学生がサポートに入ると活動するようになる機会をこれからも作っていただけると、取り組みの意味が大きくなっていくのではと思いました。また、何かを作ることや、作ったものを理解し合うというのは、震災や被災ということに関わらず意味のあることだと思います。 <黒沼 令さん談>

新しい記憶を積み上げていくためにも専門家が積極的に行動
最初にこうしたワークショップができたことに感謝申し上げます。私からは、これらの取り組みを通して今後の活動を考える時、大事なことを3つお話しします。まず、継続していくためにもアルチザン（職人）、専門家に対する敬意とつながりを大事にすること。もう一つは、アクト（行動）。福島における震災後のアートの活動は、新しい記憶を積み上げていくことが大事だと思っています。そのためにも専門家が現場に積極的に入り、活動に皆さんを取り込んで行く。その中で参加者は「考えるきっかけ」を得ることが出来ます。最後にアーカイブです。こうした活動に関わらなかった人たちにも、つながるものを作らないともったいない。福島県としてのアートのアーカイブを作って、発信していくような形を切望します。 <渡邊晃一さん談>

撮るだけでなく語り合うことで心のふれあいが生まれる
昨年も感じましたが、今年のワークショップも皆さんがすごく前を向いているという印象が大きかったです。新たな発見を探りながら撮るのですが、気がつく自分の思い出と重なっていて、それをみんなと語り合えることがとても前向きだと感じました。私は、阪神淡路大震災を経験して震災のことを語れなかった時期がありました。ですので、語れることはとても前向きなことと感ずきます。震災前の風景や人生を重ねてきて感じていることなど、写真を介して語ってくださったことを、若い人や子どもたちも聞いて共有し合えるような、そんな場があるといいなと思います。 <山崎エリナさん談>

10代にも描くまでの背景と描き上げるまでの物語がある
今回の事業で取り組んだワークショップをスタッフの一人として、参加者のそばで複数回見ていくと、絵や写真など、表現の方法は違いますが重なってくる気づきがあります。今回は、「プロセス」でした。1枚の写真にも撮られる方の背景と撮るまでの物語があるように、ワークショップ「私の大切な福島の風景」で、テーマと向き合った16歳、17歳、18歳の高校生にも、描くまでの背景と描き上げるまでの物語がありました。大切な風景、場所を感じる言葉にならないものを、作品にするまでのプロセスは年齢不問。交流事業を次に進めていく時には、そうしたことを踏まえながら、個々の過程を共有できると良いと感じています。 <事務局 笠原広一談>

撮り方のコツを教えること喜んでチャレンジしていました
小学生や中学生を対象に、タブレットやデジカメを使って長時間露光で撮影したり、遠近法を用いて面白い写真を撮るフォト・アートを行いました。ワークショップで特に意識したのが「遊ぶ」です。最初に「デジカメとタブレット、どっちを使いますか？」と子どもたちに尋ねると、圧倒的に多かったのがタブレットでした。学校教育の現場で子どもたちは、一人1台タブレットを持っています。使い慣れているので、簡単なコツを教えると「我が意を得たり」といわんばかりにバーストモードなど、普段使わないような機能を自在に操作しながら面白い写真を撮るたくさん撮ってくれました。 <高橋延昌さん談>

ART FORUM PROGRAM

第1部：取組紹介

- ◆アートで広げるみんなの元気プロジェクト 活動報告
講師：山崎エリナ(写真家) 黒沼令(郡山女子大学短期大学部講師・彫刻家) 和合亮一(詩人・教員) ※事務局による代理報告
- ◆アートで広げる子どもの未来プロジェクト 活動報告
講師：高橋延昌(会津大学短期大学部准教授) 渡邊晃一(福島大学教授) 齋正機(日本画家) ※事務局による代理報告
- 「福島子ども芸術計画」※事務局による代理報告 講師：中津川浩章(美術家) 小池アミイゴ(イラストレーター) シーナアキコ(音楽家)
- 「おとなりアーティスト2021学校連携共同ワークショップ」※事務局による代理報告 講師：門馬美喜(アーティスト) 宮嶋結香(画家)

第2部：
トークタイム

ワークショップ講師や参加者との交流

アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」2021

制作・編集 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
デザイン 有限会社デザイングマープル
主催 福島県
事業受託者 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

【お問合せ】

認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島
福島県福島市三河北町2-8 Coco Mezon1階B室
TEL 024-563-1955 FAX 024-563-1955 E-mail info@f-jdi.com